

平成28年度

第1回 河南町地域公共交通検討会議

1. 河南町地域公共交通実証運行の実績報告・・・	1
2. 事業評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
3. フォローアップ調査・・・・・・・・・・・・・・・・	19
4. 利用促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
5. スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21

平成28年5月31日

河南町

# 1. 河南町地域公共交通実証運行の実績報告

## (1) 運行開始までの経過

	内容
平成27年 12月	第4回 河南町地域公共交通会議の開催(12/25) →協議が調っていることの証明
平成28年 1月	道路運送法申請 1/29許可
2月	実証運行開始(2/2)

## (2) 運行開始に係る広報活動

	内容		
平成27年 12月	住民説明会で実証運行計画(案)を説明(10月)		
平成28年 1月	ホームページ	チラシを全戸 配布	利用案内冊子 を全戸配布
2月	実証運行 出発式(2/2)		
3月	広報かなん		チラシを全戸 配布

### (3) 実証運行 出発式

2月2日（火曜日）かなんぴあ午前8時発の「北部循環バス、南部循環バス（B）」で、河南町地域公共交通実証運行の出発式を執り行いました。



【テープカット】

2016.2.3 07:06

#### 100円バスと200円タクシーで公共交通の空白地域解消を 大阪・河南町が実証実験

公共交通の空白地域の解消などを目的し、大阪府河南町は2日、循環バスとタクシーを運行する実証実験を始めた。バスは大人100円、タクシーは同200円。実験期間は1年で、効果をみて本格導入するか決めるが、町は「町民の足」として定着させたいとしている。府内では堺市が大人300円の乗り合いタクシーを運行、岬町でも空白地域を結ぶ100円のバスを運行しているが、採算など課題もあり、河南町の取り組みが注目される。

河南町は府南東部に位置し、富田林市と奈良県葛城市に接する。人口約1万6千人で、鉄道が通っていないほか、路線バスのルートも十分ではない。

運行を始めたのは、マイクロバス2台とタクシー1台。路線バスが通らないルートなどを結び、町北部と南部に分かれている。人口の多い北部は毎日運行。南部は平日と土曜日2ルートに分かれ隔日で運行し、日曜日は別ルートを通る。

一方、タクシーは町東部と南部を運行。週3回、2時間に1本走る。

バスは大人100円、子供50円。タクシーは大人200円、子供100円。町が運営し、民間事業者に委託。自分で車を運転しなくなった高齢者の利便を図るねらいもある。

2日町内では出発式があり、武田勝玄町長は「実証ではなく『本番』だという気持ちで取り組む」と意気込みを示した。バスに試乗した同町大宝の無職、田中久男さん（77）は「何年かすれば私たちも車で買い物に行ったり病院に行ったりするのが難しくなる。何とかして育てていかねば」と話した。

府内では、交通機関が不十分な地域で、同様の取り組みが浸透。岬町では平成13年4月からバス空白地帯に大人、子供とも100円均一のバスを運行。26年度で約12万6千人が利用したが、約2千万円の赤字。苦しい経営が続いている。

一方、南北に広く山間部を抱える堺市では26年から予約で運行するタクシーを運行。大人300円、子供150円。予約締め切りの繰り上げなどの工夫を重ね、現在は2時間前まで予約可能。利用者は26年度約5千人だったが、27年度は12月末時点で約6300人と増えている。

【新聞記事（産経新聞 2/3）】

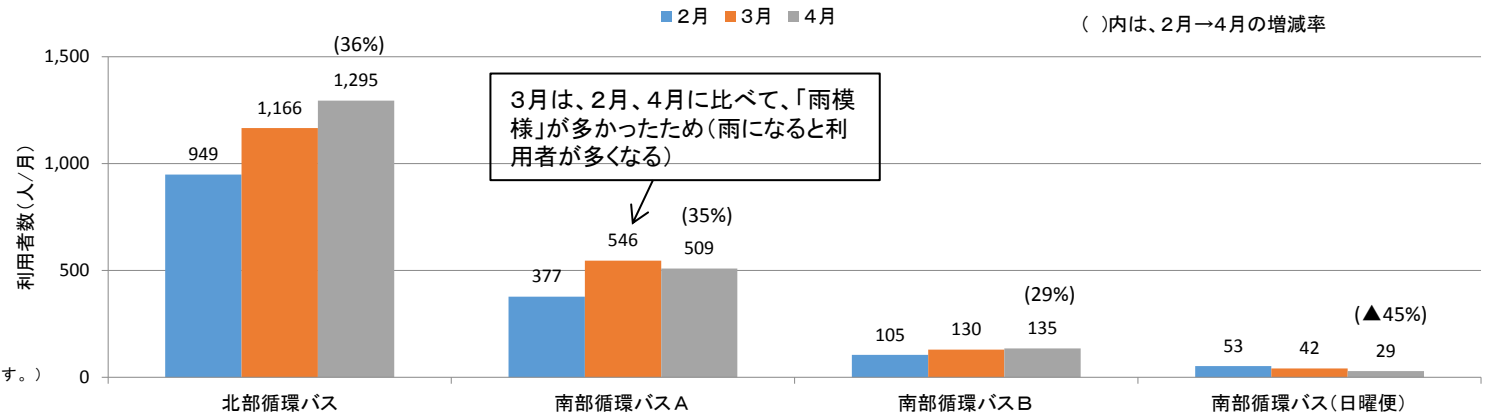
## (4) 利用者数の状況

### ① 2月～4月の運行実績（循環バス）

- 2月から4月は増加傾向（南部循環バス（日曜便）を除く）。
- 高齢者が約半分を占める。
- 1日当たりの利用者数は60人/日（やまなみバス：22人/日 平成26年度）

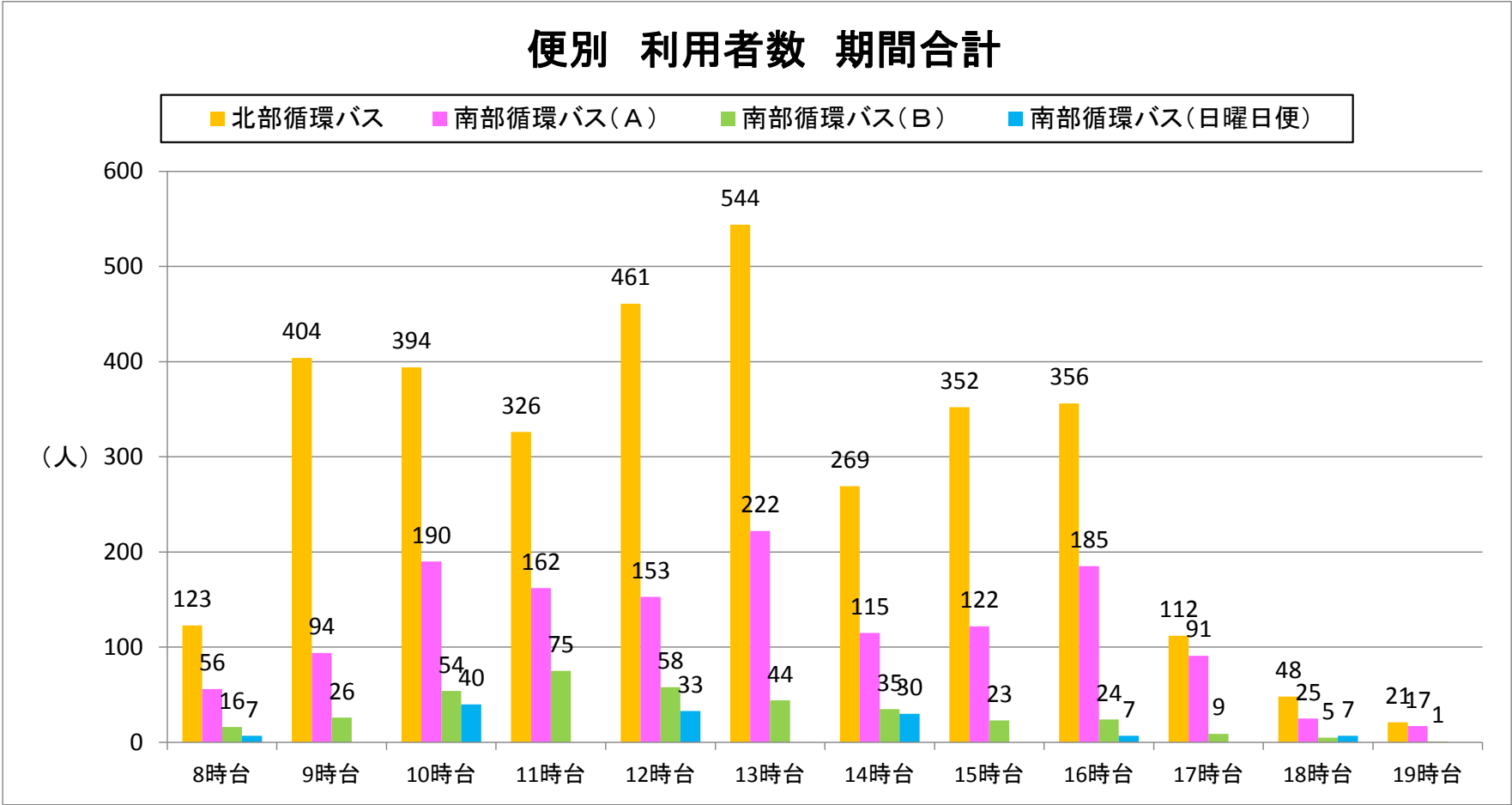
2月～4月合計運行実績 循環バス

	合計 a					運行日数 b	1日当たり 運行便数 c	1日当たり 利用者数 a/b	1便当たり 利用者数 a/b/c
	大人	小人	高齢者	障がい者					
北部循環バス（大宝地区他）	3,410 100%	1,051 31%	127 4%	1,924 56%	308 9%	89	12	38.3	3.2
南部循環バスA（さくら坂地区他）	1,432 100%	684 48%	38 3%	657 46%	53 4%	38	12	37.7	3.1
南部循環バスB（白木地区他）	370 100%	102 28%	20 5%	200 54%	48 13%	39	12	9.5	0.8
南部循環バス（日曜便）	124 100%	67 54%	4 3%	48 39%	5 4%	12	6	10.3	1.7
合計	5,339 100%	1,905 36%	189 4%	2,831 53%	414 8%	89	—	60.0	—

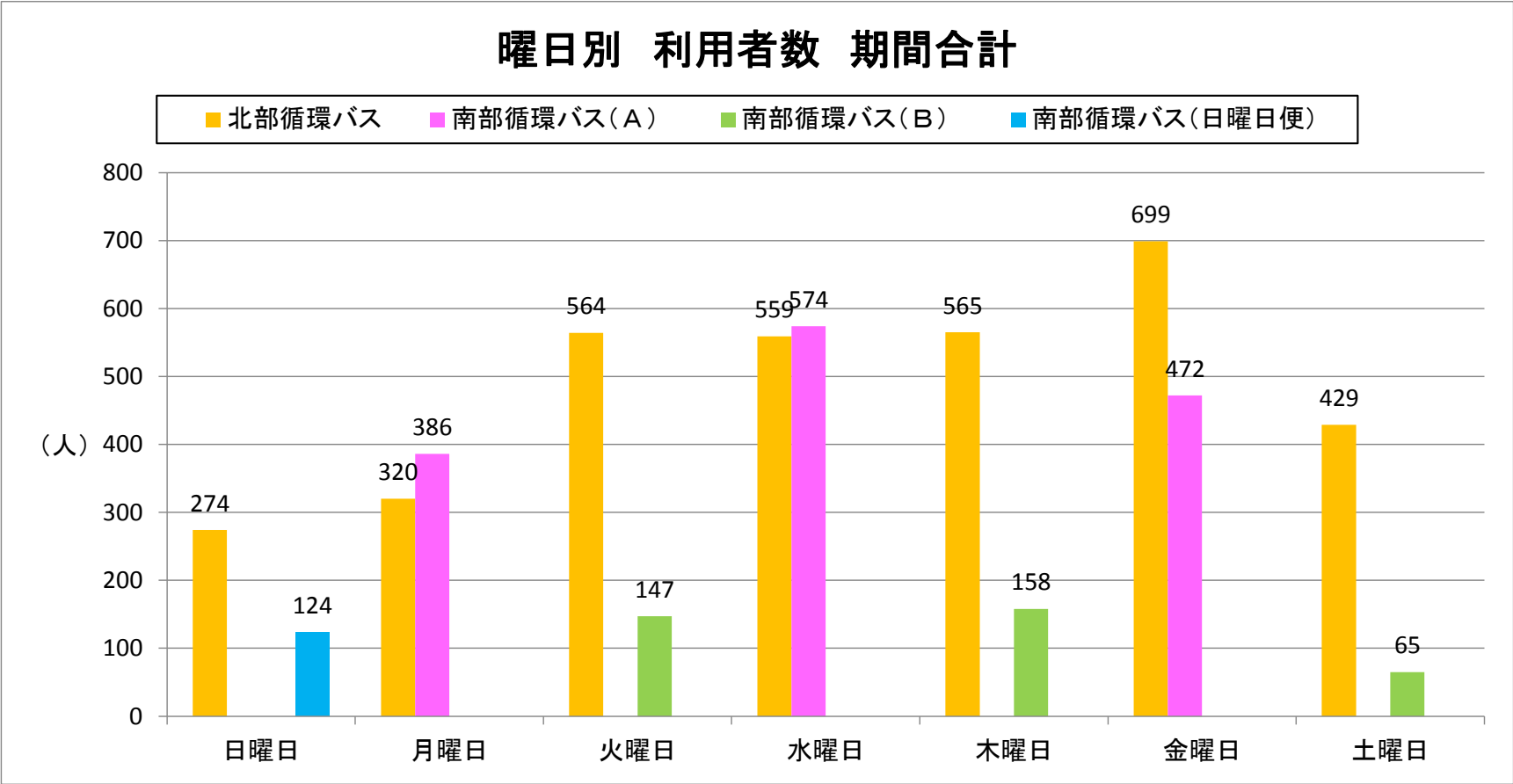


(注意)  
 ※上記の人数は、乗車人数をカウントしています。  
 ※属性は以下のとおりです。  
 大人・・・中学生以上  
 小人・・・小学生以下  
 高齢者・・・65歳以上（運転手が目視により判断しています。）  
 障がい者・・・障がい者手帳等を提示して乗車した者

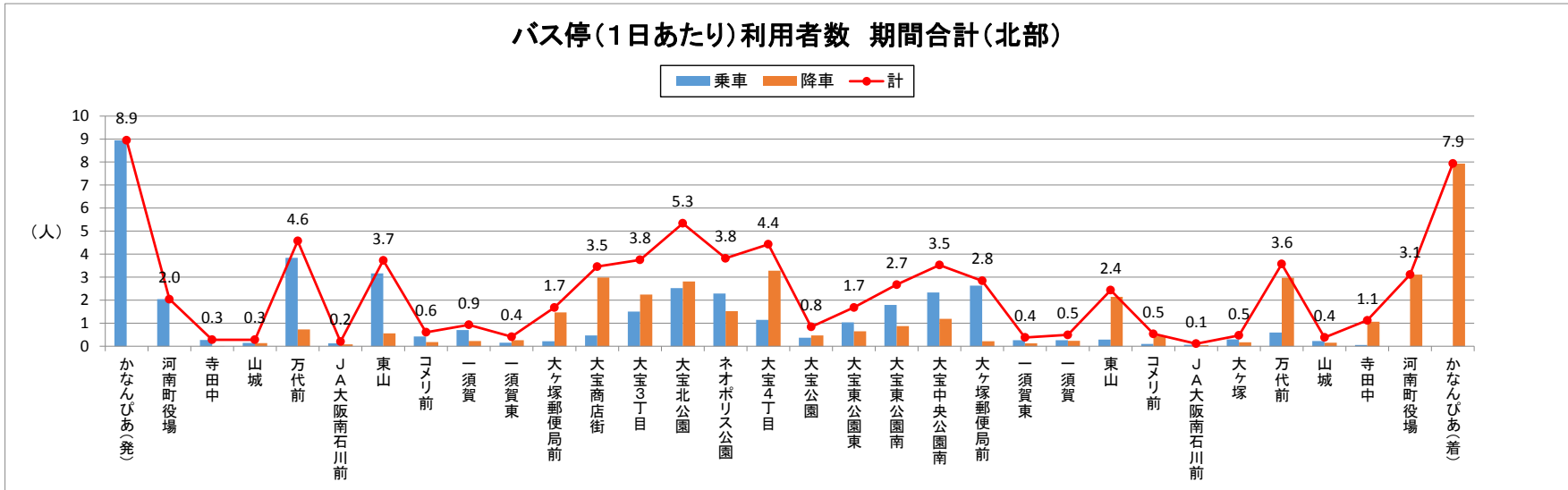
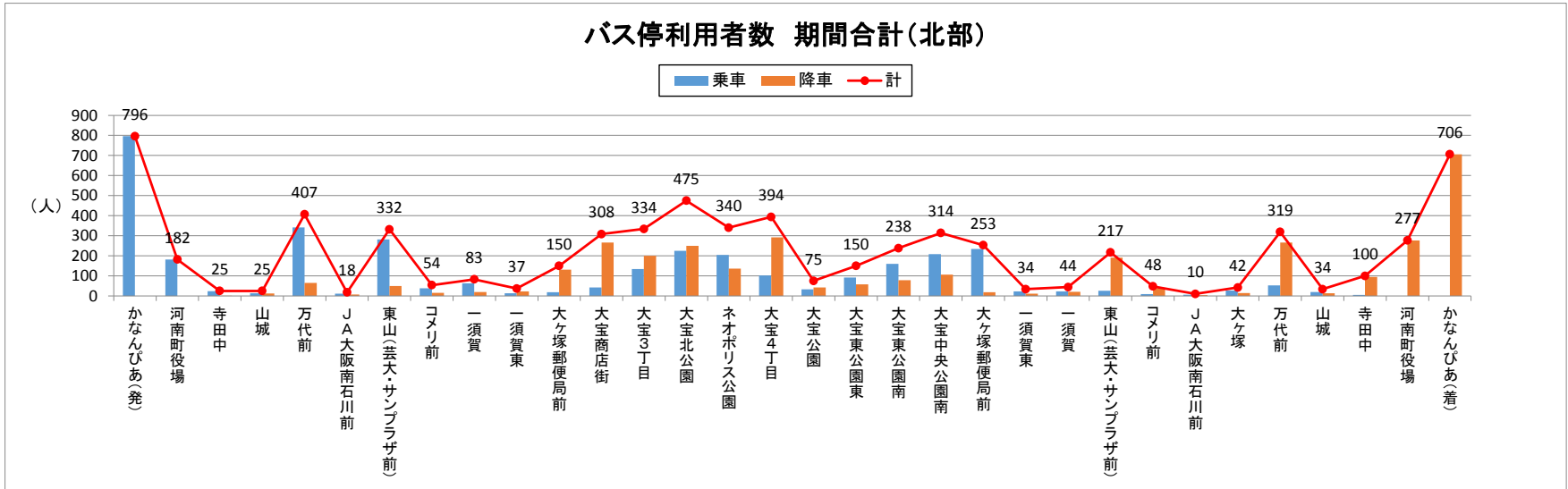
- 9時台～16時台の利用者が1日の利用者の約9割を占める。
- 19時台の利用者は少ない。



●月曜日～金曜日の利用が多い（北部循環バスでは月～日曜日のうち月～金曜日の利用者は79%を占める）

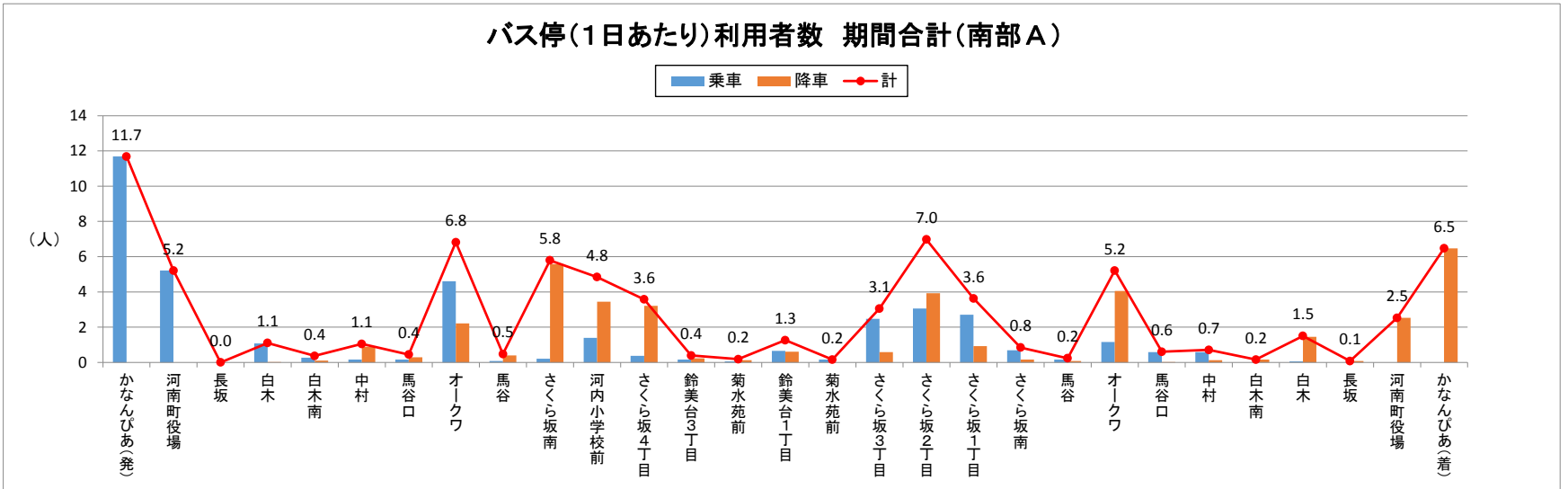
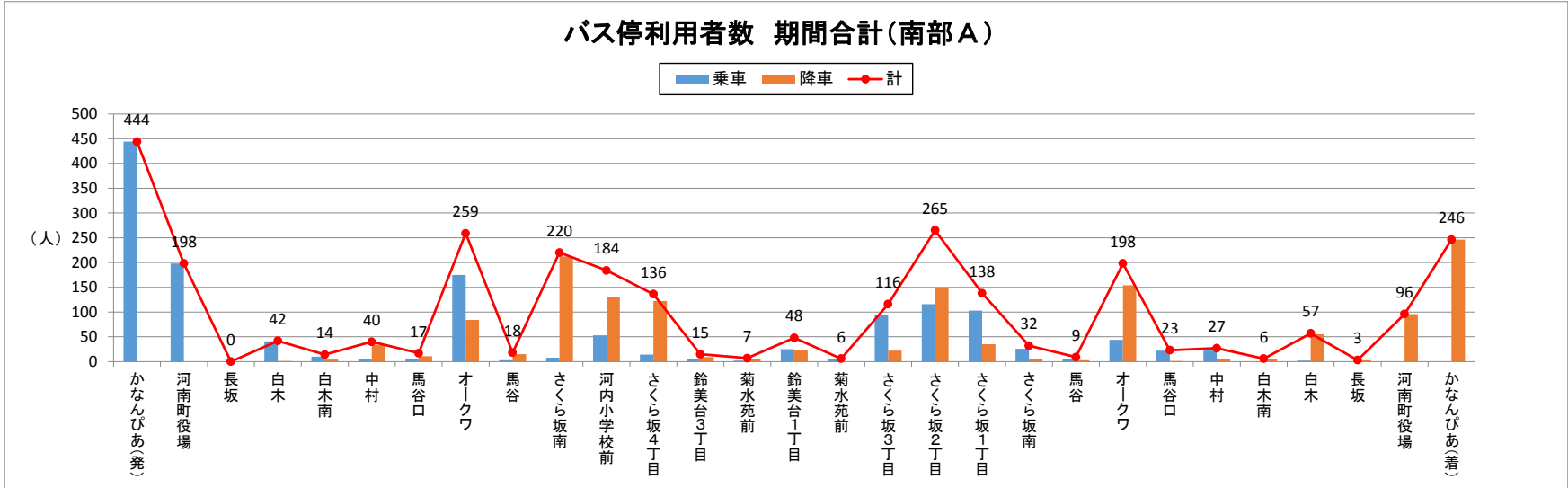


●バス停の乗車者数ベスト3（2月～4月計）：①かなんびあ796人、②万代前342人、③東山282人

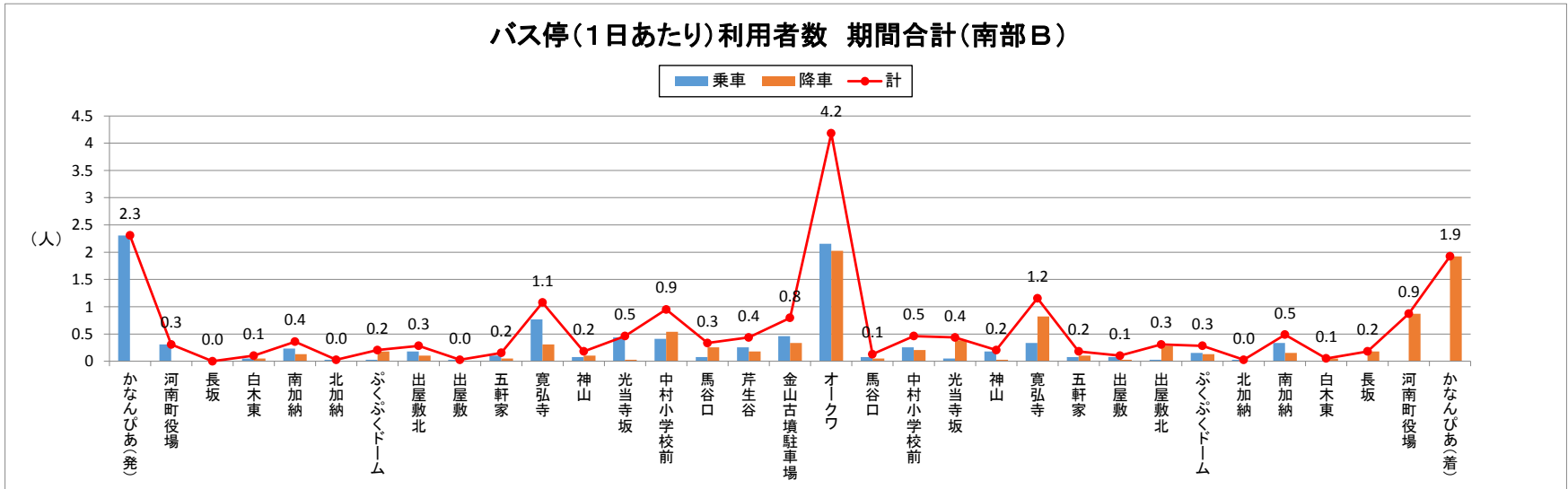
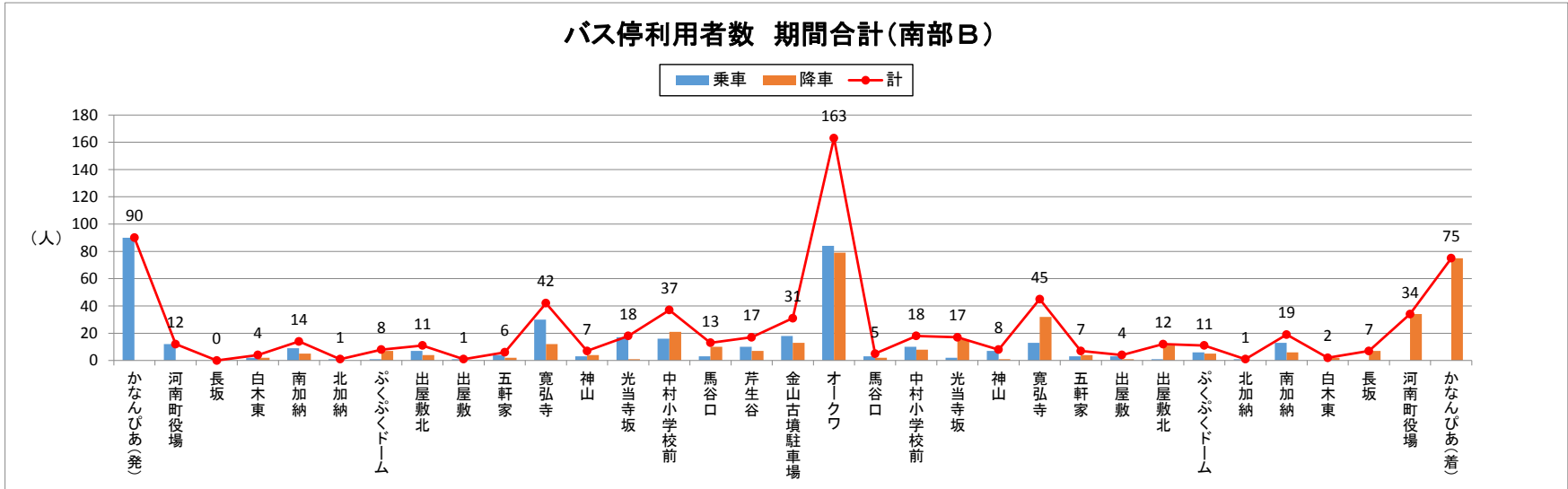




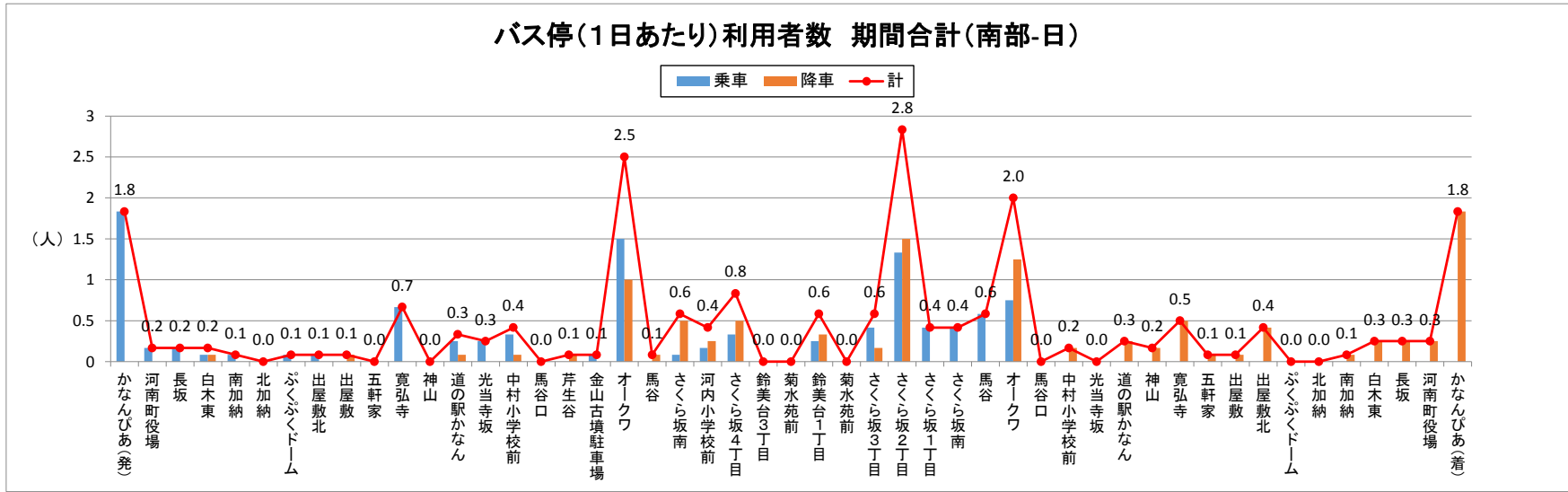
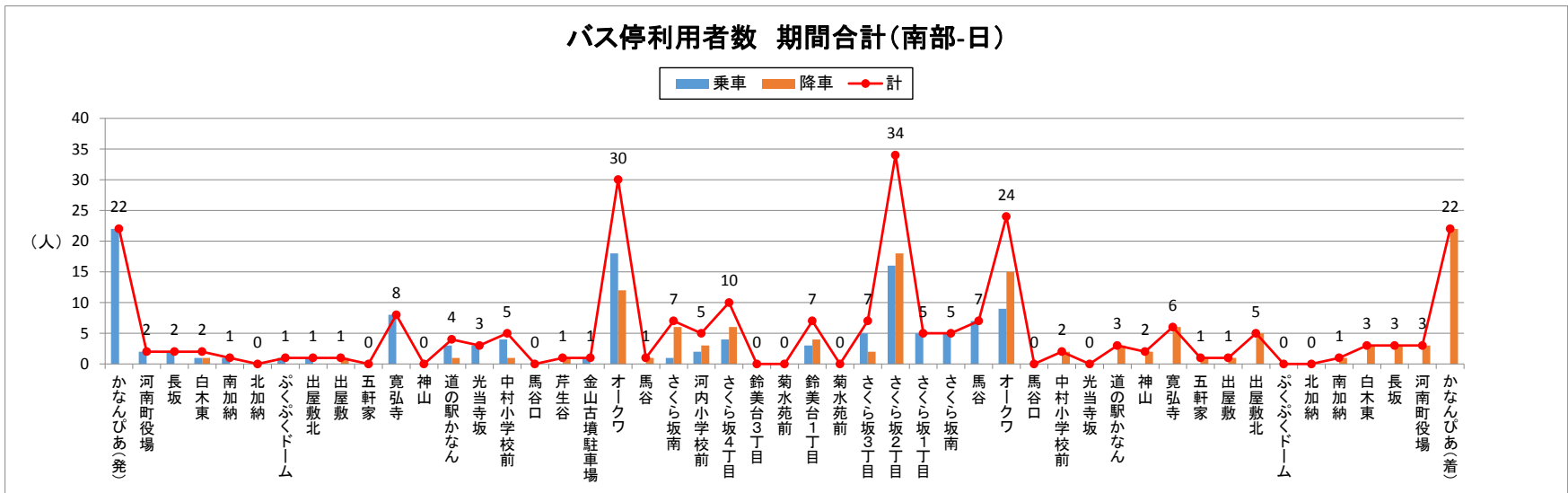
●バス停の乗車者数ベスト3（2月～4月計）：①かなんびあ444人、②河南町役場198人、③オークワ175人



●バス停の乗車者数ベスト3（2月～4月計）：①かなんびあ90人、②オークワ84人、③寛弘寺30人



●バス停の乗車者数ベスト3（2月～4月計）：①かなんびあ22人、②オークワ18人、③さくら坂2丁目16人

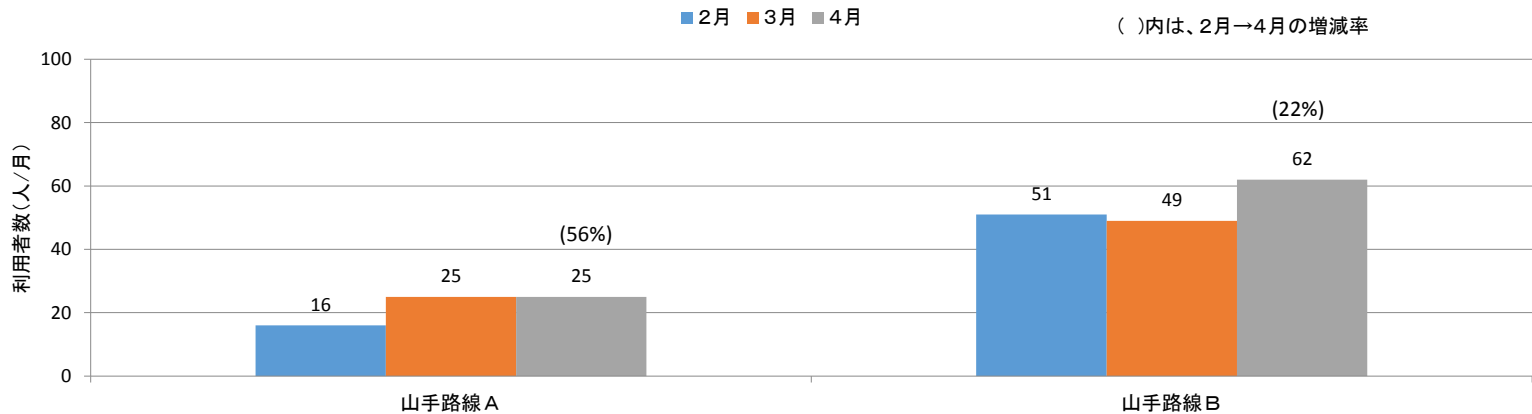


## ② 2月～4月の運行実績（山手路線）

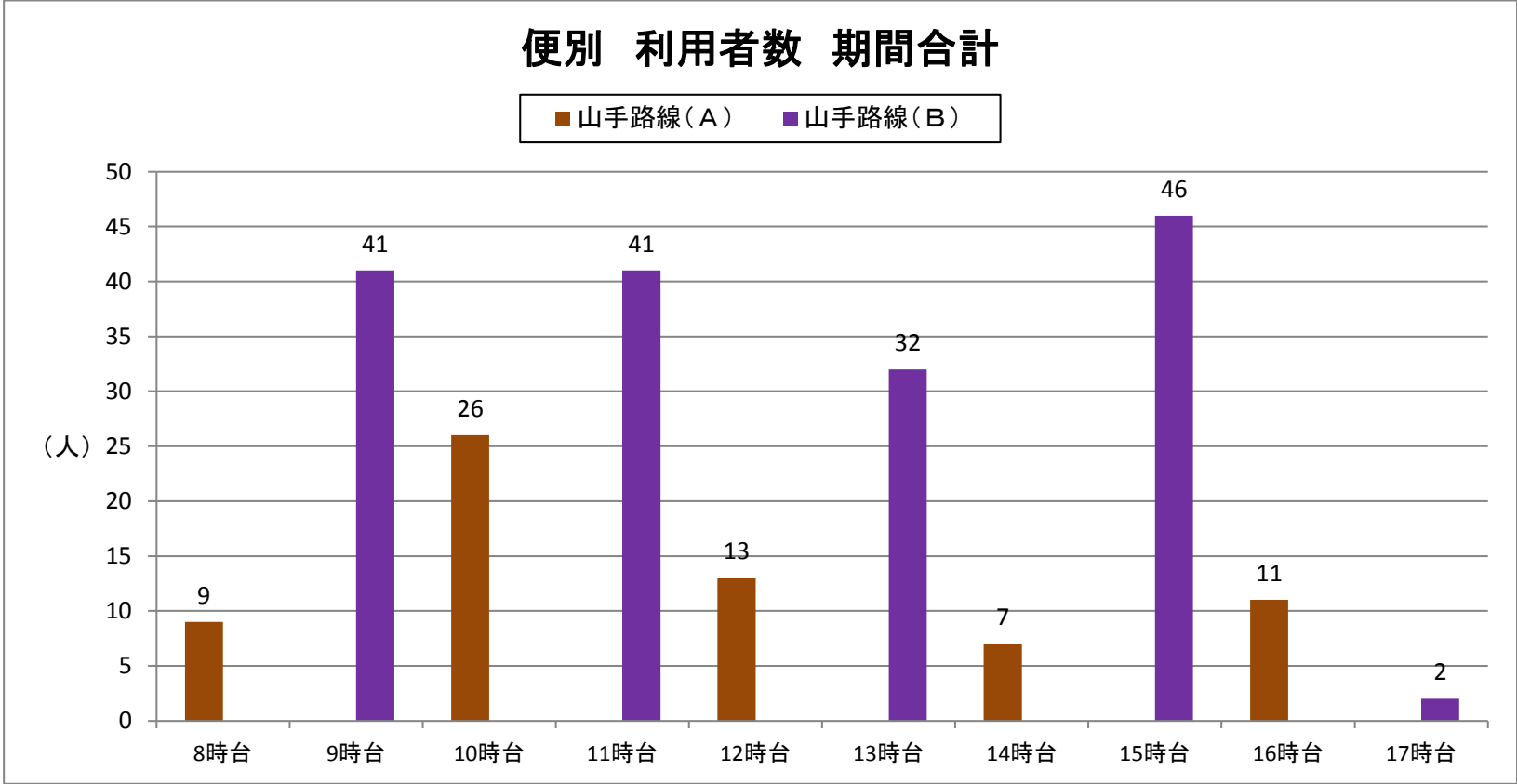
- 2月から4月は増加傾向。
- 1日当たりの利用者数は6人/日（やまなみバス：5人/日 平成26年度）

### 2月～4月合計運行実績 山手路線

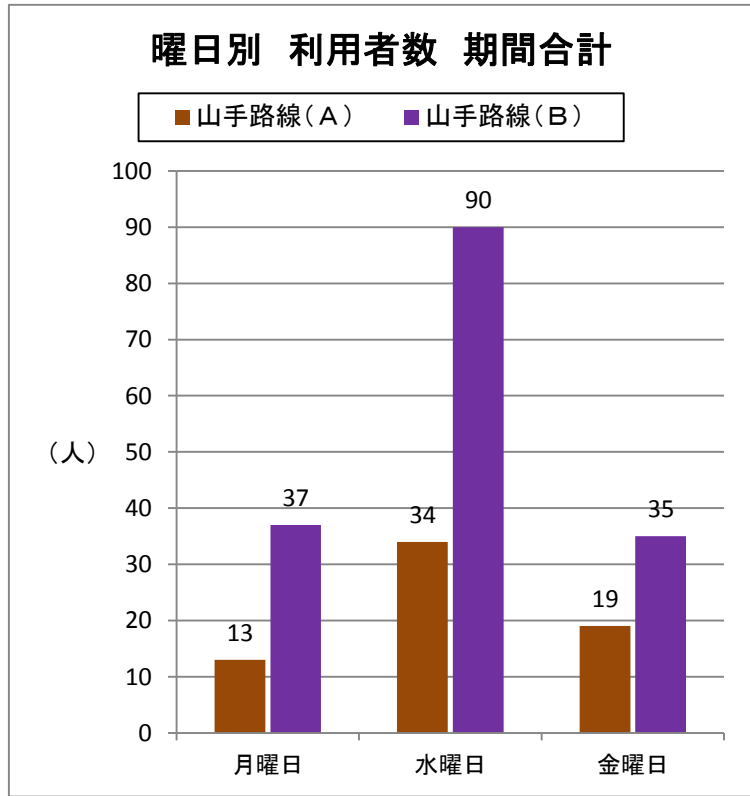
	合計 a			運行日数 b	1日当たり 運行便数 c	1日当たり 利用者数 a/b	1便当たり 利用者数 a/b/c
	大人	小人	障がい者				
山手路線 A（平石地区他）	66	65	0	38	5	1.7	0.3
	100%	98%	0%				
山手路線 B（青崩地区他）	162	158	0	38	5	4.3	0.9
	100%	98%	0%				
合計	228	223	0	38	—	6.0	—
	100%	98%	0%				



- 9時台～16時台の利用者が1日の利用者の約9割を占める。
- 8時台（山手路線B）、17時台（山手路線A）の利用者は少ない。

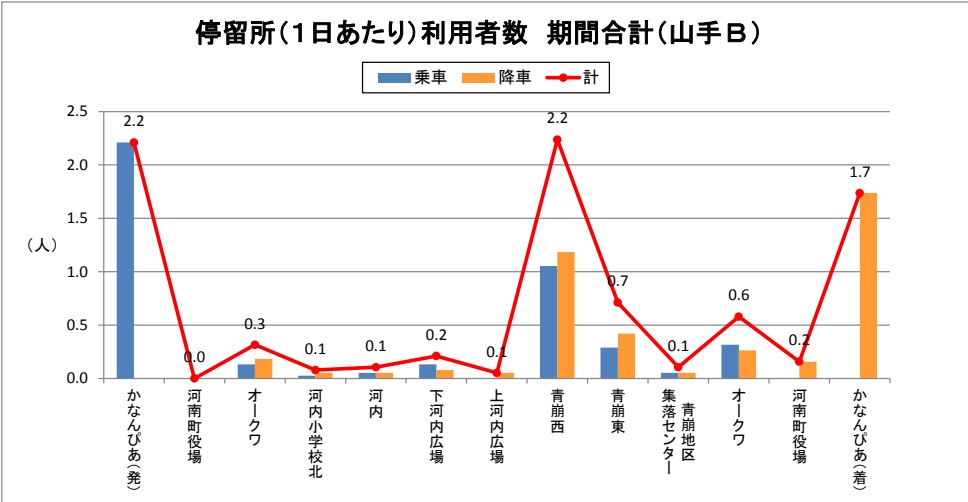
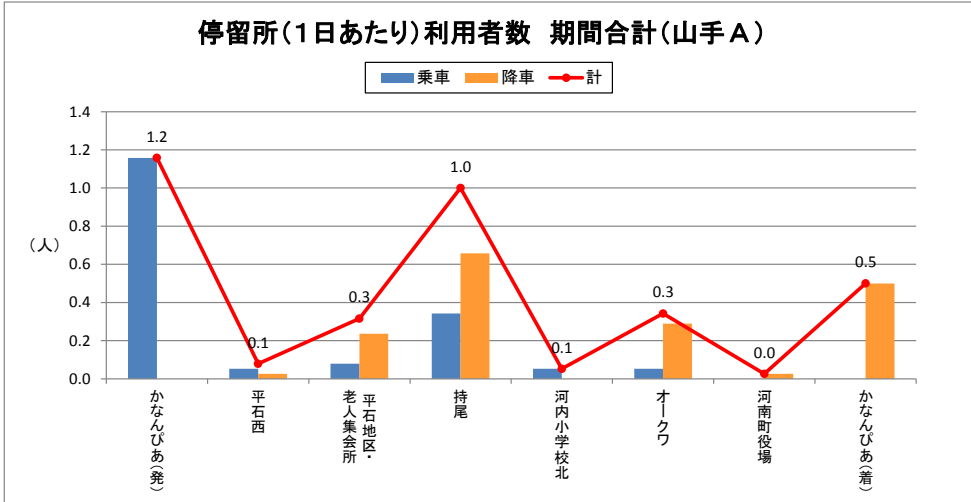
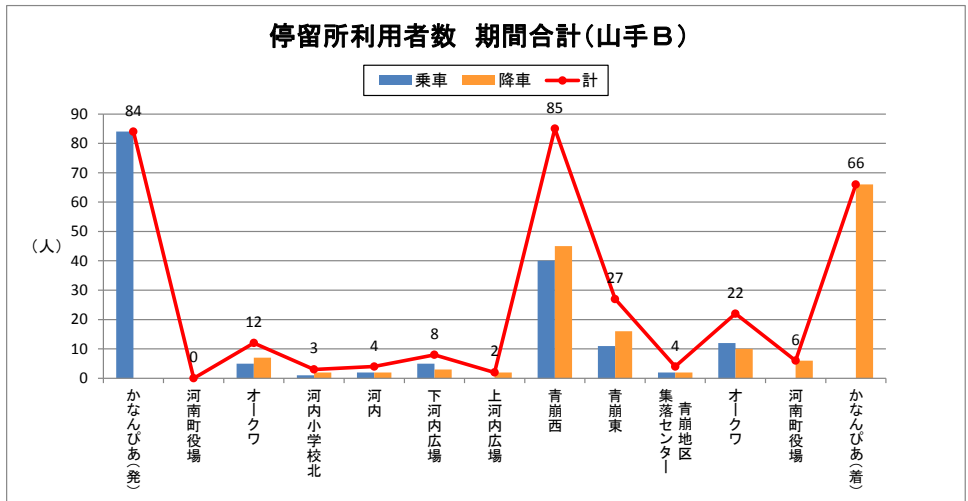
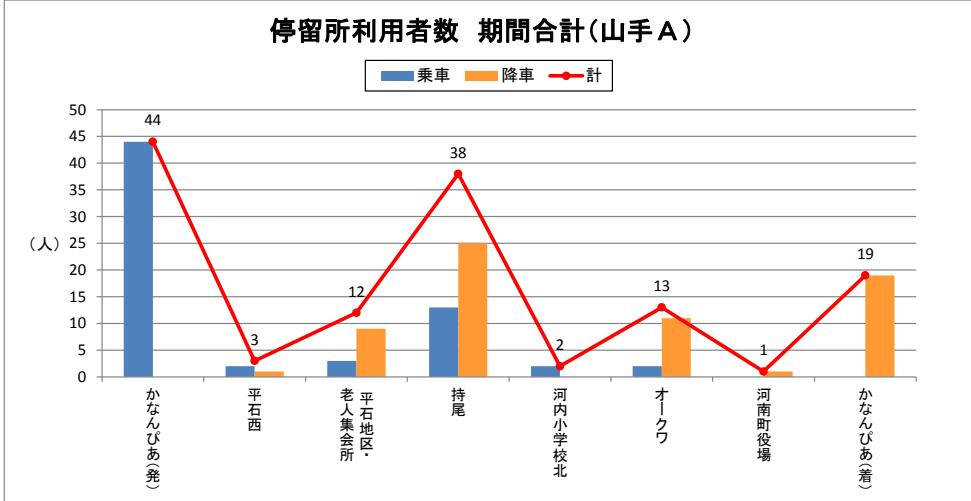


●水曜日の利用が多い（月、水、金曜日のうち水曜日の利用者は約5割を占める）



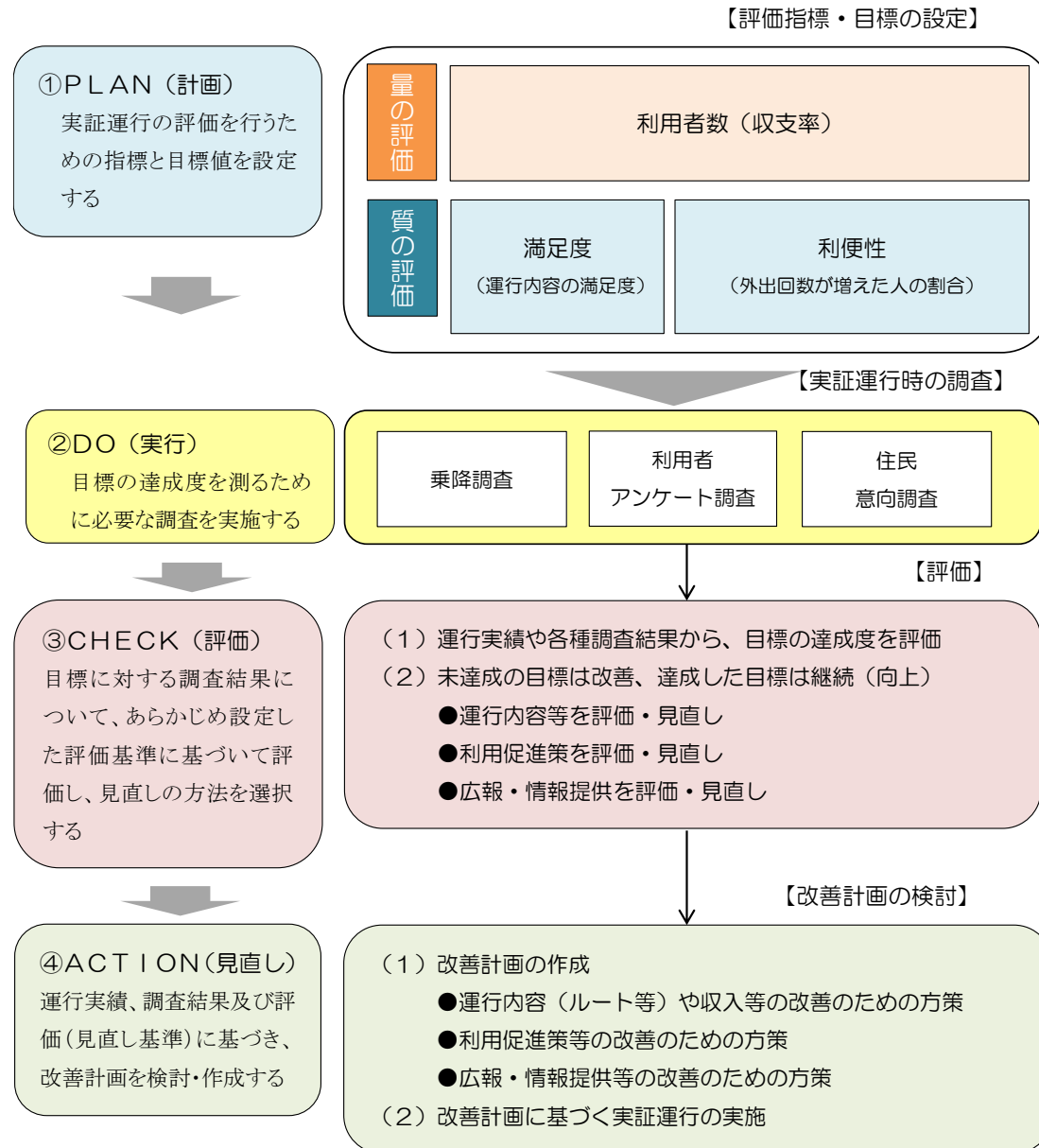
●停留所の乗車者数ベスト3（2月～4月計）：①かなんぴあ44人、②持尾13人、③平石地区・老人集会所3人

●停留所の乗車者数ベスト3（2月～4月計）：①かなんぴあ84人、②青崩西40人、③オークワ12人



## 2. 事業評価

### (1) 評価の流れ





## (2) 評価と見直し基準

### ①評価

実証運行中は、評価指標（利用者数、満足度、利便性）が目標値に到達しているかについて、調査結果等から総合的に評価する。

### ②見直し基準

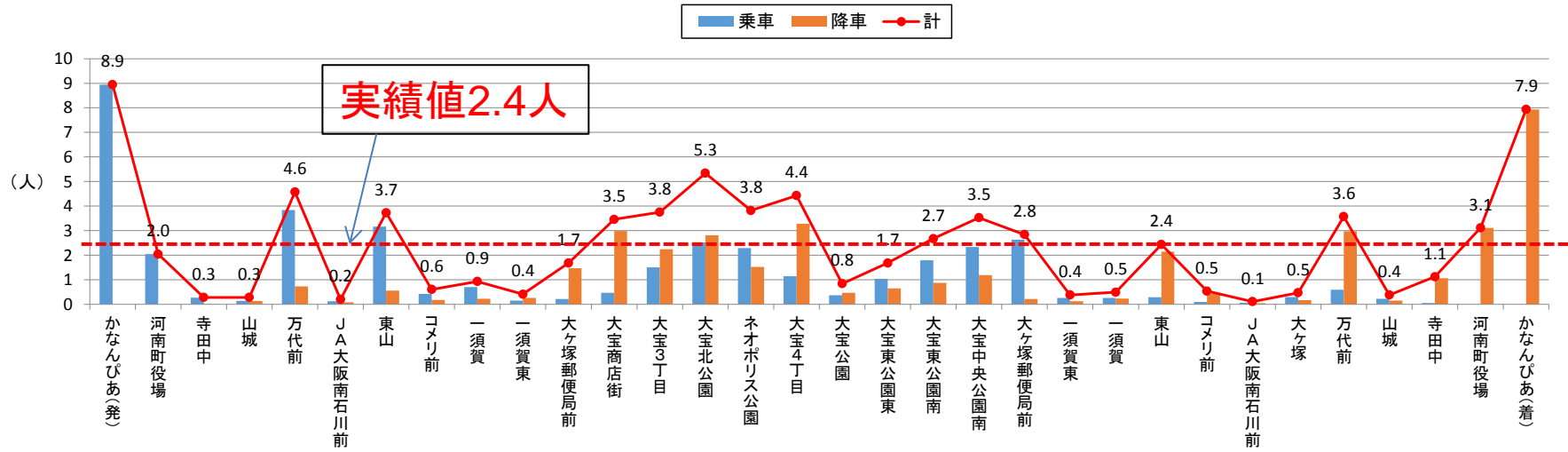
総合的な評価の結果、基準値を達成していれば、継続又は向上、未達成であれば見直し再検討することになる。

項目		見直し基準値	+	項目	見直し基準値
利用者数	バス停・停留所1日あたりの利用者数	北部循環バス実績値:2.4人 南部循環バスA実績値:2.6人 南部循環バスB実績値:0.6人 山手路線A実績値:0.4人 山手路線B実績値:0.7人	+	満足度・利便性	利用者アンケート調査結果を踏まえて基準値を設定する
	1便あたりの利用者数	北部循環バス実績値:3.2人 南部循環バスA実績値:3.1人 南部循環バスB実績値:0.8人 山手路線A実績値:0.3人 山手路線B実績値:0.9人		ルート、便数、情報提供などの満足度  循環バス、山手路線による生活の変化(外出機会の増加、買い物に行きやすくなった、自家用車の運転する回数が減ったなど)	

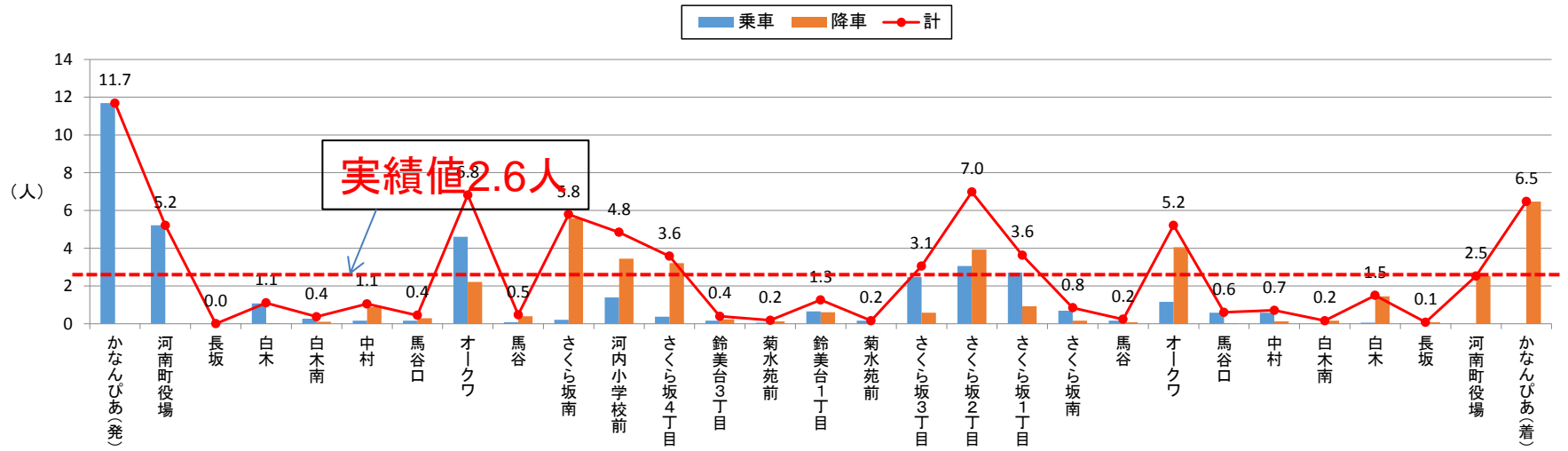


見直し内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行ダイヤ</li> <li>・バス停・停留所</li> <li>・便数、ルートなど</li> </ul>
-------	---

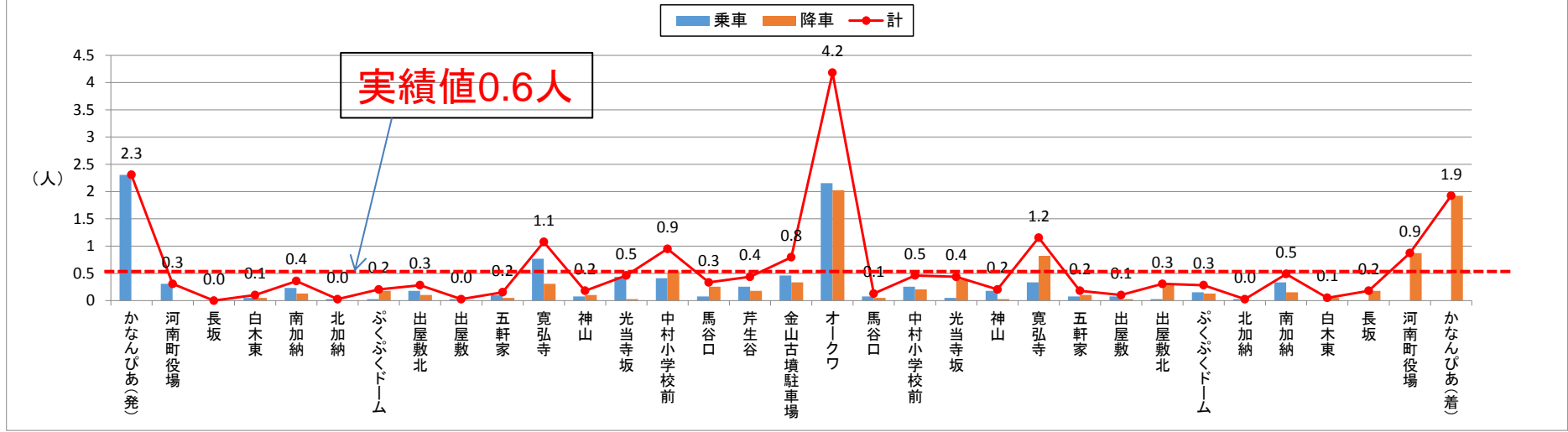
バス停(1日あたり)利用者数 期間合計(北部)



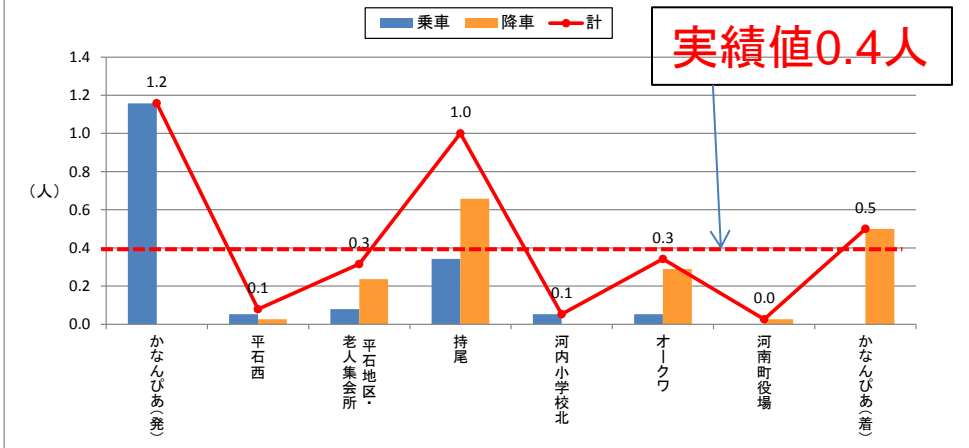
バス停(1日あたり)利用者数 期間合計(南部A)



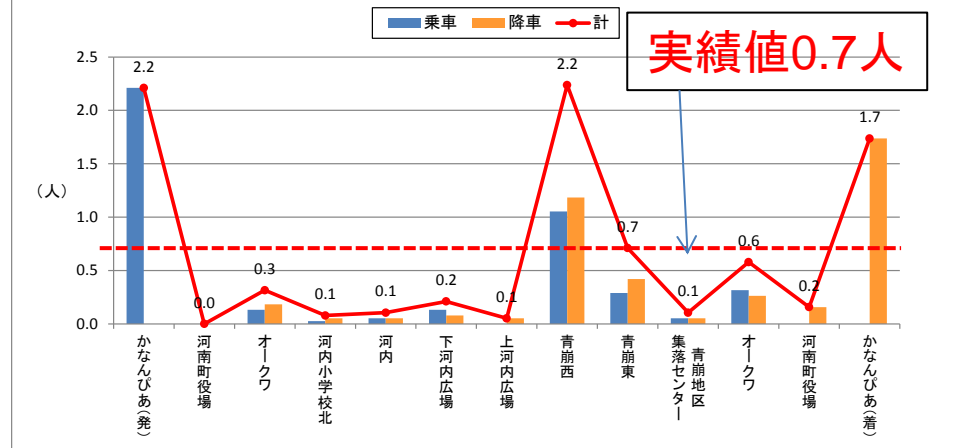
バス停(1日あたり)利用者数 期間合計(南部B)



停留所(1日あたり)利用者数 期間合計(山手A)



停留所(1日あたり)利用者数 期間合計(山手B)



項目	乗降車数調査	利用者アンケート調査	住民意向調査
期間	平成28年2月2日～(毎日)	平成28年6月(1週間配布、2週間回収)	平成28年6月～7月
方法	ドライバーが記録	<b>【配布方法】</b> 車内で調査票を配布 <b>【回収方法案】</b> ①ドライバー回収or回収箱へ投函 ②対面聞き取り調査	①地区住民代表者意見懇談会 ②住民アンケート調査
主な内容	ルート別・便別・停留所別の利用者数	・利用者の属性、目的、利用頻度等の利用実態 ・導入効果 ・改善点 等	・周知の状況 ・利用しない理由 ・改善点 等
対象者	全ての利用者	調査期間の全ての利用者	

## 4. 利用促進策

	実施内容	実施状況
知 っ て も ら う	1 公共交通のサービス周知(実証運行前) ・町ホームページ、広報紙等、多様な媒体によるPR	実施
	2 わかりやすいバスマップ・ダイヤ等の作成(実証運行前) ・住民、転入者への公共交通紹介	実施
	3 バスの愛称の公募 ・公共交通の愛着意識を高めるために実施	実施
乗 っ て も ら う	4 車内に子どもの絵画作品など掲示 ・父兄や子どもが乗車するきっかけをつくり、バスに親しみを感じてもらう	
	5 町内各種資源との連携 ・町内に立地する各種資源と公共交通の連携	
	6 職員等におけるバス通勤の促進 ・通勤等のバス利用を企業等に働きかけ ・町職員の率先的なバス利用の促進	実施
続 け て も ら う	7 広告掲示による収入確保 ・バス停、車体、車内、バスマップ等への広告掲示による収入	実施
	8 公共交通の運営状況の定期的な公表 ・町ホームページ、広報紙等、多様な媒体による周知	実施
	9 サポーター制度 ・地域住民によるバス停の清掃、花壇の設置等	

